

2023（令和5）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492601420	事業の開始年月日	平成31年3月1日
		指定年月日	平成31年3月1日
法人名	株式会社エクシオジャパン		
事業所名	アクア上鶴間グループホーム		
所在地	(252-0312) 神奈川県相模原市南区上鶴間1-12-15		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	9名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和5年11月14日	評価結果 市町村受理日	令和6年4月21日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

2022年の上鶴間グループホームの事業所目標「上鶴間グループホームが本来の家と同じよう過ごしやすい施設に近づける」を2023年より事業所理念に掲げる。2023年1月より、1階フロアから日曜日の昼食をご利用者様皆にてメニューを決めて、ご利用者様皆にて作り食べる企画、実施致し、4月より、2階フロアも実施出来るようになり、現在も継続、恒例になりつつあります。今後は、買い物もご利用者様にて行えるように支援できたらと思います。また、5月より、運営推進会議が対面的に開催できるようになり、地域交流の機会が増えています。その中でも「ぞうきんプロジェクト」に参加出来るようになり、ご利用者様の活動、活躍する機会が増えています。日々積極的に行って頂けるように願っていた事から積極的に行われている現状に職員一同びっくりしております。今後、安心、安全確保は必須ですが、ご利用者様の積極性を大切に活動、活躍を支援していきたいと思っております。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年12月20日	評価機関 評価決定日	令和6年2月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業者は小田急線「相模大野」駅から徒歩20分ほどの閑静な住宅地の中に立地しています。幹線道路にも近く、利便性の良い環境となっています。法人は相模原市を中心に高齢者福祉事業や複数の事業を展開しています。

<優れている点>

事業所理念である「本来の家と同じよう過ごしやすい施設に近づける」を具現化しています。利用者が本来持っている能力を最大限引き出しています。毎日の食事作りには包丁で野菜を切り、重なる手順には職員が一つひとつ伝えながら調理をお願いしています。もっと手伝いたいとの願いには、日曜日恒例の利用者による昼食作りで腕を奮ってもらう機会を作っています。利用者ができることを奪わない意識を常に持ち、「できること」「頑張ればできること」は即取り入れ、「むずかしいこと」には少しサポートすれば「できること」に変わるとし、グループホーム本来の「日常生活自立支援」を行っています。利用者一人ひとりが思う「本来の家」、職員それぞれが思う「本来の家」を実現するために、互いの意見を否定せず、色々な意見を試し、利用者と職員が繋がる施設を形にしています。

<工夫点>

利用者の行動には必ず意味があると支援しています。帰宅願望のある人は本当に帰宅したいだけなのか、何か伝えたい思いがあるのではないか、活動したいのではないかと利用者の行動や発言する言葉のもっと先を捉え、利用者寄り添うことを徹底しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	アクア上鶴間グループホーム
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念を上鶴間グループホームが本来の家と同じよう過ごしやすい施設に近づける。と決め、事務所内に掲示し、問題点等の話し合い等の際、事業所理念を念頭に置いて話し合えるよう努めている。	「本来の家と同じよう過ごしやすい施設に近づける」を念頭に日々の支援に努めています。自宅で料理をしていた人や、入浴は夕方だった人、食器は瀬戸物だった、など利用者一人ひとりが本来の家のように過ごしやすくと感じてもらえるような支援に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	2022年より、上鶴間自治会賛助会員参加、本年度5月より、運営推進会議対面的開催出来る事にて、自治会、地域包括支援センター、民生委員等、外部との関わり直に出来始める。外気浴、散歩にて、施設周辺を歩ける事にて近所さんと接する機会増えている。	「認知症について困っている地域の人の相談できる事業所」を目指し、事業所の存在を知ってもらうための活動を広げています。上鶴間地域づくり部会主催による、小学生の子ども達に手作り雑巾を寄付をする「かみつるま雑巾プロジェクト」にも参加しています。利用者が手縫いした雑巾を寄付し地域との交流につなげています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	本年度より、施設見学を随時受け入れ、普段のそのままを見ていただいています。そして今後急激に増えると認知症の人との関わり方に活かしていきたい、活かしていただきたいです。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍から再び対面で開催され、新鮮に地域の方々との関わりが始まりました。未だコロナ、インフルエンザ等感染対応の情報交換、対処報告が主ですが、地域包括支援センターより、ぞうきんプロジェクトへの参加のお誘い参加、活動アップ最中です。	運営推進会議の中で活動報告の他に事業所の見学も行い、事業所のサービス内容をより分かってもらう工夫をしています。地域の薬局職員からの感染症に対する情報や、相模原市内のグループホーム管理者からは、利用者が雑巾を手縫いする際の注意点など、多種の助言を聞く機会となっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村担当者さんが徐々に来設される機会が増えています。（介護保険認定調査員、生活支援課）わからない事も聞きやすい状況でいい感じです。	相模原市認知症高齢者グループホーム連絡会に参加しています。分からないことがあった場合には、すぐに行政に電話で確認することで解決しています。生活保護受給者の家族への連絡が取れない場合などにも、すぐに相談できるような関係構築に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束研修にて現況をアンケート調査にて把握に取り組む。身体拘束は行われていない。虐待は疑い、主に言葉による心理的虐待の疑いが記入され、スピーチロックもあると思いますとの回答がでた。研修方法も事例、アンケート調査、結果からの話し合い等に再確認、防止に努めている。	法人主催の事例案件研修に「身体拘束・虐待について」を行っています。研修には職員全員が受講し、「予防」「改善」「疑問点」「感想」を記入した研修報告書も提出しています。無記名で提出可能とし、率直な意見を出すように管理者は促しています。提出後は上長が直接現場を確認し、一人ひとりの報告書について意見を伝え意識を深める取り組みを行っています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	学ぶ機会については、こういう事も虐待にあたる等、事例検討にて理解、防止に努めている。特に認知症の方の対応として虐待との関連への防止へも注意している。	働く人の環境が虐待に繋がると考え、職員の負担軽減に重きを置いています。日々の業務に追われないように、できることは利用者にも役割を持ってもらい余裕を持つ時間を作り出しています。行動制限することが虐待につながると理解し、利用者の思いを傾聴する時間を大切に支援にあたっています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員にも資格取得へ勉強しているものも、管理者以外、その制度に関わる機会がない。但し、現状権利擁護が必要とされる利用者様はいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約対応が施設管理者に変更されて、十分な説明していると思われる。いつでもご家族様から不安や疑問点を尋ねやすい環境にすることも大切だと思う。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見、要望は受け止めて最大限に良い方向にいくよう職員間で話し合っている。コロナ禍、外出希望申し出が多く今も終息してなく、随時話し合い、方向更新が必要です。	利用者から意見が出やすいような環境を作っています。その日に入浴する人を職員だけが把握していたことから、「お風呂に入る私たちが分からなくてどうするの！」との利用者の意見を反映し、自身の入浴曜日が一目でわかる入浴表をフロアに掲示した事例もあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	今現在少しの時間（職員の出勤、退勤時間）を利用して職員の不満含めて意見を聞くこと、情報収集に努めている。	思いついた意見を自由に出せるような工夫をしています。「御利用者様の活動内容、できること、頑張ればできること、むずかしいこと」を模造紙に書き、職員休憩室に掲示しています。むずかしい事は一部介助をすれば「できること」になると支援のヒントを共有しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者から労働時間について説明を受けている。そして、残業、無償残業がない環境整備、やりがいのある職場作り、そして何より楽しい職場環境作りに努めている。	過重労働にならないことを念頭に働きやすい職場環境を目指しています。自立援助ではない業務に職員が追われないように、利用者に役割を持ってもらいます。利用者の参加によりできた時間は、利用者の思いの傾聴や、寄り添う時間に当てることで、利用者にも職員にも、会社にも負担がかからない環境を整えています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	力量把握するも、現場での指導方法の違い等にて統一出来ていないことが見受けられた。その中でも、着実に成長していると感じられる。	職員に働くやりがいを持ってもらうために、管理者自ら自身の目標「地域一番の認知症施設にする」などの複数の目標をフロアに掲げています。目標が立てられない職員にも小さな目標を見つけるきっかけとなるように声掛けをしています。法人の教育研修課による内部研修や、外部研修受講の際の受講費用負担を整備しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	管理者は、グループホームからグループホームへの入居者様移動にての関わり、相模原市グループホーム連絡会出席等にて関わり、勉強、交流機会が増えている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス利用開始前カンファレンスにてアセスメント等職員間で確認、支援内容の統一をはかる。ご利用者様の不安なく、安心して過ごされるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	日々の生活の中でご本人様の希望を伺い、カンファレンスにて職員間で確認、その後、ご家族様へ連絡し説明、意見交換し、良い介護に向けての関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	必要とされる支援を見極めることが大切にて情報収集、分析が必要とされる。まずは、不安なく安心して頂けるように対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	生活介助を通じてコミュニケーションをとれるように、ご本人様が出来ることをストレスがかからないように支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月のお便りにて日々の生活を少しでも伝わるように努めている。面会解禁時には、出来る限り面会に来て頂けるように、意見交換出来るように、良好な関係を築けるように努めている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	誰もが面会に来られるように開放的な環境づくりに努めている。感染症拡大防止対策のご理解も含めご協力頂いております。	コロナ禍により馴染みの関係継続が難しくなりましたが、コロナ5類の移行以来、感染症に留意し施設に訪問してもらえるよう取り組んでいます。外部医療受診の際に、友人の自宅に立ち寄り施設への訪問につなげた事例もあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の生活にて良好な共同生活が出来るように職員が入り関わり合い、支え合えるように努めている。日曜日にご利用様が昼食メニューを決め、昼食作りを行い、食べることも恒例になって関わりが日常化している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用終了されても、出来る限り関係性を維持、またお役に立てるように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中からご利用者様のの内の中を感じ、つかめるように努めている。生活介助、レクリエーション、お話し、傾聴にて情報収集、分析、検討、対応に努めている。	利用者の表面的な言葉や様子から、支援者側の思い込みによって判断するのではなく、出来る限り話を聴いてから判断することを大切にしています。言葉通りではない、別の思いを、その裏に含んでいることを理解し支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴を読み、ご家族様、ご本人様等何気ない日常会話から情報収集に努めて職員間で共有しより良いサービスに向けています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の関わりにて、毎日同じようなことを感じることもある、変化を感じる際は、その変化がどういうことか把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人様、ご家族様もちろん、職員、計画作成担当者と日々情報交換を行うことに努めている。それぞれの意見に反映されています。	日々の「個人記録」には、支援内容を短期支援項目の番号で記入し、「支援経過記録」にはケアプラン以外の出来事を記録します。医療的処置の記録「ナース・ノート」に記入し、これらのデータから1~2週間毎にモニタリングし、適宜ケアプランを見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	管理者がフロアに入ることもあり、皆実感することにて情報共有でき、介護計画や見直しの参考に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご入居時より、ご利用者様の希望に出来る限り添えられるように努めている。事業所理念を思い、職員間で知恵を出し合い取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議が対面的に開催されて地域包括支援センター、自治会、民生委員等関わり再開、散歩等再開により、ご近所様との関わりが少しずつ増えています。ぞうきんプロジェクト参加し始めました。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の訪問診療を受けている。感染症対応、予防接種対応もお願いしています。	事業所の提携医が月に2回の訪問診療を行います。歯科医は個々の必要に応じて診療を受けています。入居前からのかかりつけ医の継続もあり、診察には家族が付き添い診断報告を受けています。看護師職員が在籍し、医療連携体制を確立しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	ご利用者様の体調の変化や便秘等の様子確認を看護職員へ伝えて対応してもらったり、適切なアドバイスを頂いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と積極的に情報提供を行うように努めている。連携、協働に努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期の際にはより慎重にご家族様と話し合い、地域関係者と共に最善へと努めている。	看取りを行っています。入居時に延命措置に関し家族の意見を聴いていますが、揺れ動く家族に寄り添い家族が納得する形を取っています。看取りケアになった際には、部屋を明るくしたり皆で歌を歌ったり、本人が寂しくないような気配りをしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時対応マニュアル作成して目の届きやすいところにも貼ったり、設置している。OJTの際には、必ず緊急時対応説明をしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の防災訓練、消防署職員最低年1回直接指導、消火器使用方法指導等受けている。	災害時や緊急時のマニュアルを、玄関や事務所の、職員の目につきやすい場所に掲示しています。夜間想定避難訓練もしていますが、実際の夜間状態での訓練を検討中です。消防施設・器具の点検は、防災総合会社に依頼しています。	災害備品のストックとリストは整っていますが、食品の賞味期限の明記が期待されません。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご利用者様の立場になり、個々の意志の尊重に気を付けています。話しやすい雰囲気づくり、言葉遣い、声のトーン等にも気を付けるように努めている。	個室や風呂場の出入りに気配りをしています。トイレのドアにカーテンをすることで、排泄中に他の利用者が間違えてドアを開けても見えないようにしています。呼び名は、家族が聴いても違和感のないことを基準にして決めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	一番難しいことにご利用者様の気持ちを汲み取ることで挙げられますが、ゆっくりとご利用者様のペースの雰囲気づくりにて、選択肢を交え自己決定出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを重要としている。最近、ご利用者様がペース事態忘れてしまい、時に一つ一つ行動を随時お伝えしていくことの大切さも感じるようになりました。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	皆様、おしゃれな洋服をお持ちですがなかなか着られる事もない現状でした。職員にて提案、来ていただいています。そして、お似合いですとお声がけすると満面の笑みにてこたえて頂きます。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	ご利用者様のほとんどは全て出来ます。積極的に行って頂きます。この状況を維持もしくは、食事づくりがご利用者様主体になるようにしていけるように関わりたいです。	最も大切な食事は利用者と一緒に手作りしています。利用者の残存能力を最大限発揮出来るよう、見守りながら包丁を使っている利用者もいます。日曜日の昼食はメニュー作りから利用者が参加しています。行事食には利用者の活躍を見られるように家族の参加の声掛けをしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	手づくり補水液、ゼリー等活用しながら水分摂取確保に努めている。栄養状態等は記録から気になる際は往診時に医師に相談、指示をもらうように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後速やかお声掛け、口腔ケアの促しを基本とするも、ご利用者様スタイルも大切に個々様々な声掛け、誘導を心がけています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	定期的なお声掛け、誘導を心がけている。シグナル等の情報共有にて早めの察知に力を入れている。	リビングに設置の排泄パターン表をチェックしながらトイレ誘導しています。「立ちましようか?」「ちょっと外へ行きましようか?」などその人に受け入れられ易い声掛けの工夫をしています。便秘は3日を目途に、看護師の判断で種々の便通処方を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分補給の確認、対応、散歩、歩行、体操、立位支援等ここに合わせられるように努めている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	午前入浴から午後入浴へスケジュールを変えてみたり、入浴場の扉へ「湯」と貼ったり、「ニューヨークへ行きましよう」とか工夫しています。	冬はヒートショック対策で午後を入浴時間としています。風呂へ誘いすぐに動く拒否されることもあるので、ゆっくり時間をかけて支度をします。高齢者の体調を懸念し、長湯は5分を目途にしています。入り易いチェア一式機械浴機があり利用者も介護士も負担なく入浴できるようにしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	見当識障害にて昼夜逆転傾向、食後座席にて傾眠してしまう等、ご利用者様さまに対応、支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の効果、取り扱いには薬剤師がしっかりとわかりやすく説明をしてくれ職員が理解しやすく、相談、対応しやすい状況です。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日常生活で行うことに積極的に参加、行って頂いております。皆様が行うことにてあつという間に終わってしまう現状です。今後更なる役割を探すことが職員の急務です。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一人ひとりの状況にて外出、散歩支援を再開し始めました。ご家族様のご協力をお願い致し出来る限りご本人様のご希望に添えられるようにしていきたいと思っております。	コロナ禍の外出制限で、弱くなった足腰の回復の為に散歩の機会を増やしています。毎日1時間を散歩時間に当てて、順番に外出支援をしています。食材の仕入れに同行するなどの工夫もしています。車での外出は家族の応援をお願いしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金に関しましては、トラブル防止の観点から管理者が管理しております。但し、ご利用者様の購入希望等のお話の際には、しっかりと耳を傾け対応に心がけています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご入居の際には、携帯電話の持ち込みのご利用者様はいますが、使い方が分からなくなり、使用されなくなるケースが多く、施設へ直接にかけて頂き子機にてお話し頂けるようにさせていただいております。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご利用者様の製作した作品等、壁に貼らせて頂いております。季節の変化を感じて頂けるように出来る限りさせて頂いております。	リビングには飾りだけでなく、各人の目標を貼り出すなど、元気づけの場にもなっています。掃除機の音に敏感な人に配慮し、利用者も一緒にモップで床掃除をします。テーブル拭きは利用者が行います。イスの配置はテレビを皆が公平に観えるように配置しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	色んな方と接する機会、トラブル回避、相性等踏まえ、席替えを積極的に行っております。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	出来る限りご希望に添えるように努めています。転倒へ発展する可能性高い等の際はご本人様、ご家族様へ相談、対応をお願い致しております。	介護ベッドとクローゼットは備え付けで、掛け寝具とカーテンは持ち込みです。ベッドの位置は好みで変えています。リネンは10日毎に洗濯します。湿度調整は、調整が難しい加湿器よりも安心な濡れタオルを使います。居室担当が衣料品の管理をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	転倒事故防止観点に努めています。足元付近の点検には特に気をつけています。		

事業所名	アクア上鶴間グループホーム
ユニット名	2階

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念は事務室、休憩室等目につく場所に告知され、全職員に共有しています。また、その理念をもとにケアを行っています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域のイベント活動など、ご利用者様および職員共に積極的に参加しています。またご利用者様の散歩等を通して、地域の方々と交流の機会を設けています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	本年度より、施設見学を随時受け入れ、普段のそのまを見ていただいています。そして今後急激に増えると認知症の人との関わり方に活かしていきたい、活かしていただきたいです。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍から再び対面で開催され、新鮮に地域の方々との関わりが始まりました。未だコロナ、インフルエンザ等感染対応の情報交換、対処報告が主ですが、地域包括支援センターより、ぞうきんプロジェクトへの参加のお誘い参加、活動アップ最中です。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村担当者さんが徐々に来設される機会が増えています。（介護保険認定調査員、生活支援課）わからない事も聞きやすい状況でいい感じです。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	年二回の施設内研修があり、身体拘束について学ぶ機会を設けています。月一回のフロア会議等でも、全職員が現在のケアの問題点など話し合い、ケアに活かしています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	年二回の施設内研修があり、虐待について学ぶ機会を設けています。全職員が虐待に対する意識を常に持ち、職員間で話し合いの機会を作るなど、防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	定期的に研修を開き、制度について学ぶ機会を設けています。ケアの中での気づきは他の職員や管理者と話し合い、支援に結び付けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ホーム長に一任されていますが、職員に尋ねられても速やかに対応できるよう、報告・連絡・相談を徹底しています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設内では常に電話・訪問等でご意見をうかがう機会を設けています。ご利用者様、ご家族様のご面会時に直接ご意見をいただくこともあり、ケアや運営に反映できるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	今現在少しの時間（職員の出勤・退勤時間）を利用して職員の不満含めて意見を聞くこと、情報収集に努めている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者から労働時間について説明を受けている。そして、残業、無償残業がない環境整備、やりがいのある職場作り、そして何より楽しい職場環境作りに努めている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	力量把握するも、現場での指導方法の違い等にて統一出来ていないことが見受けられた。その中でも、着実に成長していると感じられる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	管理者は、グループホームからグループホームへの入居者様移動にての関わり、相模原市グループホーム連絡会出席等にて関わり、勉強、交流機会が増えている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス開始前に必ずカンファレンスを実施し、どのようなケアをしていくか職員間で意思統一をはかり、ご利用者様が安心した生活を送れるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様の考えや要望をしっかりと受け止め、できる事、できない事をしっかりとお伝えし、真の信頼関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族様とご利用者様との関係性をしっかりと観察し、必要としている支援を見極め、安心した生活を送っていただけるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご利用者様は、人生の大先輩なので尊敬の念を持ち、お互いが良い気持ちになり、明るい生活が送れるよう支援しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様とは、ご利用者様の情報を密に交換し、共にご利用者様を支えていく関係を構築しています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔の話に耳を傾け、大切なキーワード等を提示し、ご利用者様が思い出せるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者様が集まり、共に活動できる時間を設けています。ご利用者様同士の関わり合いを見守り、人間関係で不安等がある時は、積極的に相談に乗るよう努めています。情報は職員間で共有し、支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスの利用が終了されたご利用者様のご家族様から情報を提供していただき、共に生活支援ができるように努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者様の思いを受け止め、希望、意向の把握に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	以前の生活状態をご家族様、ご利用者様から伺い、ご利用者様らしく生活できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご利用者様の現状を把握し、一日を安全に、楽しく過ごしていただけるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご利用者様がより良い暮らしをするため、課題とケアのあり方についてアセスメントを含め、全職員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ご利用者様の様子や気づきを個別記録や支援経過記録に記入し、職員間で情報交換をし実践に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご利用者様の日々の生活状況を月1回のお手紙で、ご家族様へ情報提供しています。また、電話や面会などを通じ、ご利用者様、ご家族様が互いの状況を理解できるよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	訪問理美容等活用し、ご利用者様が清潔で心身共に満たされた生活が送れるよう努めています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご利用者様やご家族様の希望するかかりつけ医になっており、受診後の状況など情報をご家族様に報告しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員が出勤時に、職員が気付いた変化は報告し、健康面でも相談し助言をもらっています。ナースノートも活用しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して治療できるように情報を提供します。病院関係者、ご家族様とも連絡を取り合い、退院支援に結びつけていきます。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご利用者様、ご家族様と状況が変化するたびに意向を確認した上で、方針を話し合っています。情報、方針はチームで周知し、支援に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルを用意し、職員は緊急時に備えています。必要な備品、物品の置き場は決まっています。職員が把握できるよう告知されています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の協力を得て、職員とご利用者様が一緒になり、定期的に避難訓練を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご利用者様の気持ちや必要な介助を職員が共有し、気持ちを尊重したさりげない声かけで対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご自身の思いや希望を言葉や表に出すことが難しいご利用者様が多くおりますが、気持ちを汲み取れるよう努めています。職員は常に話しかけやすい空気を作り、選択肢を用意したり、様々な働きかけを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを大切にし、居室では読書や日記を書いたりし自由に過ごし、各々様々に過ごしています。入浴は他のご利用者様との兼ね合いもあり職員が入浴曜日を決めています、希望は常にお聞きしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	居室から出るときは鏡の前に立ち、髪を梳いて笑顔になられます。ご利用者様同士で互いの服を褒め合ったり、着替えて出てきたり、おしゃれを楽しんでいます。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	野菜を切る、おかずを盛りつける、食器を洗う、拭く等、ご利用者様と職員が一緒に行っています。食材のチェックを一緒に行い、野菜を探したり名前を当てたり、何ができるかメニューを想像して話したり、食事を楽しむ工夫をしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量を記録し、常にチェックしています。医師、看護師と情報を共有し、食事形態など一人ひとりに適した提供を心がけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後速やかに声かけし、介助の方は誘導して口腔ケアを実施しています。必要に応じ歯科医の往診を行い医師、職員の間で情報共有をはかっています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄の時間、内容情報を記録し、排泄パターンを推測、声かけや誘導でトイレでの排泄を支援しています。自尊心には常に配慮し、失禁時は周囲に知られることが無いよう、誘導を心がけています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日の水分量、食事量を記録し、食事の質等把握しています。排便の無いときは腹部のマッサージや体操を行い、自然排便を支援します。また医師の指示を受け、便秘薬でコントロールする場合があります。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	リラックスできるよう、ご利用者様一人ひとりゆったりと入っていただき、職員とご利用者様のコミュニケーションの場として活かしています。ご利用者様の体調や気分を重視し、無理強いせず臨機応変に対応しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	居室の温度、明るさ等、ご利用者様の希望に沿って環境を整え、過ごしやすく安心できる空間を作っています。ご本人が希望しない限り、他のご利用者様を居室に通さないよう見守っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師や薬剤師の指示のもと正しく服薬の支援をし、ご利用者様の日々の変化を記録しています。また職員一同薬の内容、効果等の理解に努め、特に変更があったときには速やかに周知徹底するよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日曜の昼食は、ご利用者様中心に献立を決め、皆様に楽しく作り、美味しく召し上がっています。他にも家事やレクリエーションを通して、生活に張り合いや喜びをもって過ごせるよう、支援しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍のおり外出は控えていましたが、ご家族様のご協力のもと、現在は散歩や買い物、地域のイベントの参加を支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	当フロアは様々な理由からお金や貴重品の所持をお断りしています。欲しい物、必要な物はご家族様へお伝えし、ご用意いただいています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族様の意向を優先しています。現在手紙を書いたり、電話をかけることができるご利用者様はいらっしゃいませんが、希望があればご家族様にお伝えします。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご利用者様にも協力いただき、イベント時または季節ごとの装飾を共有空間に取り入れています。ご利用者様の好む音楽や映像を流したり、華美にならないシンプルで居心地のよい空間作りに努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ご利用者様同士の相性を考慮し食席を決めていますが、多くのご利用者様が集まって談笑されるときは、イスを移動したり工夫しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時のご利用者様、ご家族様の好みを反映した居室となっておりますが、生活していく中でご利用者様の安全を考慮し、かつ居心地よく過ごせるように環境を整えています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	転倒防止、移動の邪魔にならないよう居室、フロア、トイレ等の動線には物を置かないよう、また空間を広めにとって安全に配慮しています。		

2023年度

事業所名 アクア上鶴間グループホーム

作成日： 2024 年 4 月 21日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		上鶴間グループホームの事業所理念がご利用者様、ご家族様、全職員に伝わっていない。	事業所理念を示し広める、具現化し皆わかるようにする。	各フロア、休憩室に上鶴間グループホーム事業所理念を貼る。(1ヶ月)	12ヶ月
2		上鶴間グループホームの事業所理念がご利用者様、ご家族様、全職員に伝わっていない。	事業所理念を浸透させる	朝礼、各フロア会議、月例研修にて事業所理念の話をする。(毎日、開催日)	12ヶ月
3		上鶴間グループホームの事業所理念がご利用者様、ご家族様、全職員に伝わっていない。	ご利用者様が思う本来の家と職員が思う本来の家との共感、実現に向ける。	<ul style="list-style-type: none"> ご利用者様面談、ご家族様面談、職員面談を行い、関係の強化。 運営推進会議への参加、面会来やすい環境作りを行う 	12ヶ月
4		あいさつ、礼儀、笑顔が少ない気がする。	安心して生活出来る環境作り、安心して働ける環境作り、ゆっくり、ゆったり、やさしい、笑顔で溢れるホームにする。	ありがとうございます。ありがとうございますを1日100回言う、相手に伝える、相手からもらう。相手の立場になる。	12ヶ月
5					ヶ月